

いいししんりんくみあい  
飯石森林組合

地域を守り、人々を守る  
森のプロフェッショナルたち

多角的な業務を行う  
4つの部門

島根県は、県土の総面積のうち79%を森林が占めるといふ日本でも有数の森林県である。特に中山間地域における森林の割合は高く、その森林を整備して活用しながら、次世代に引き継いでいくことが森林組合の役割の一つである。

《飯石森林組合》は、県内でも大型組合の一つであり、管轄エリアは雲南市の一部（三刀屋町、吉田町、掛合町）と飯南町をまたいだ広大な面積を管理する。森林整備や苗木事業など森づくりを行う「森林整備部門」のほか、木材の製材から販売を行う「加工部門」、木材の生産・販売を行う林産事業や舞茸の生産・販売といった特産事業を担う「販売部門」、人材育成や広報事業を行う「指導部門」と4つの部門を設置し、さまざまな業務を多角的に行っている。

事業の主体となる「森林整備部門」では山の整備はもちろんのこと、年間約20万本の苗木を生産し、木を伐って育てることで山を循環させている。また、住宅周辺の草刈りや木の伐採、雪かきといった住環境整備も事業の一環。「お墓周りを掃除したり、スヌメバチ駆除の依頼が来たり。この前は福祉関係のご相談もあ

りました」。笑顔でそう話すのは木村守登組合長。組合員の多様な相談事にも可能な限り耳を傾けるといふ、地域に寄り添う組合の姿勢が垣間見える。

女性の雇用とモリトの育成  
積極的な人材対策を

人材確保の対策にも長年力を注いできた。県内の組合に先駆け、労働条件の改善や安定的な所得を維持するための取り組みを10年以上継続して行い、若手労働者や、Uターンの新規参入者などを積極的に受け入れている。現在の従業員数は83名で、現場作業員の平均年齢は30代、県内の森林組合の中でも若手が多い組合だ。そして林産現場で2名、養苗現場で1名と、合わせて3名の女性が現場で働いている点にも注目したい。2名の女性作業員は男性作業員と同じように山に入り、立木を伐採し、大型機械を操り、木材を搬出する。「男女問わず、誰もが働きやすい就業条件や環境づくりに努めています。女性への環境づくりについては、現場でのトイレの設置や、専用の更衣室、シャワー室の設置でしようか。現場でも不自由なく働けるよう、必要なものは揃えていきたい」と組合長。産休育休制度はもちろん、女性従業員がキャリア形成を

進めていくための必要な制度を見直し、今後も女性雇用を積極的に進めていくという。

そうした柔軟な雇用形態を取り入れながら、人材育成として「ザ・モリト」の育成にも力を注ぐ。モリトとは森林整備従事者に対する県独自の呼称であり、当組合では《ザ・モリトII 森のプロフェッショナル》として、その育成を続けてきた。各種研修への参加や、資格・免許の取得をはじめ、ベテラン作業員の中から指導員を任命して、新しいモリトを次々に育てていけるような教育の体制を整えている。「作業員」というと昔は使われる側という位置づけでしたが、作業員がいなければ森林組合の事業というのは成り立ちません。モリトという呼称はそういったリスベクトの意味も込めて使用しています。すべての従業員の関係性は同等であるべきという意識を持ってやっています。」

従業員の幸せづくりが  
地域の幸せにつながる

施設としては2022年の9月から「吉田木材流通センター」を新しく開設し、現場で伐り出した原木の集積や、流通機能の強化を拡充している。木材生産については、本来は地元生産・地元消費という考えの

と製材・加工を行ってきたが、近年では日本家屋が少なくなってきた風潮もあり、以前ほどの需要がないことが課題となっている。業務としては森林整備がメインとはいえ、地域経済に寄与するという目的においては、雇用の場を作っていくことが重要である。「我々の技術や資源を活かし、さまざまな可能性から事業を多角的に展開する必要があると思っています」という組合長の言葉とおり、当組合では広葉樹の原木から製造する「おが粉」を使用した舞茸生産や、木材を使った新しい製品づくりなど、山の仕事以外のところで新しい販路を作り出している。

山を守り、自然災害の脅威から人々を守るためにも、森林組合は地域にとってなくてはならない組織。飯石森林組合の事務所の一室の壁には森林組合の仕事について、「みんなに幸せを育むこと」と大きく書かれている。「山の財産を地域に還元し、人々を幸せにするということろにつなげていきたい。そのためには、従業員が生き生きと働き、安心して現場の仕事ができるような職場づくりをしていきたい」と組合長。「地域づくりと森づくり、それを支える人づくり」という経営理念のもと、今日もモリトたちは山へと向かう。



7



5



4



2



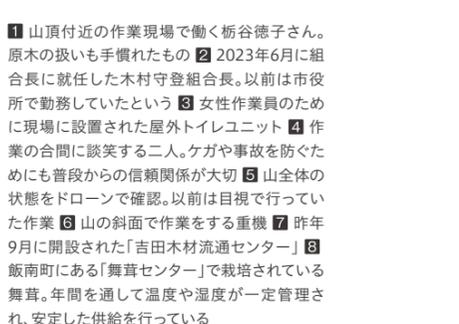
1



8



6



3

1 山頂付近の作業現場で働く栃谷徳子さん。原木の扱いも手慣れたもの 2 2023年6月に組合長に就任した木村守登組合長。以前は市役所で勤務していたという 3 女性作業員のために現場に設置された屋外トイレユニット 4 作業の合間に談笑する二人。ケガや事故を防ぐためにも普段からの信頼関係が大切 5 山全体の状態をドローンで確認。以前は目視で行っていた作業 6 山の斜面で作業をする重機 7 昨年9月に開設された「吉田木材流通センター」 8 飯南町にある「舞茸センター」で栽培されている舞茸。年間を通して温度や湿度が一定管理され、安定した供給を行っている



## 飯石森林組合

## 事業内容

森林整備、木材生産、製材加工、きのこ（舞茸）生産等

創業 平成元（1989）年12月1日  
代表者 代表理事組合長 木村 守登  
社員数 83名（男63名 女20名）  
本社 島根県雲南市掛合町掛合2152-11  
電話 0854-62-1520

## 採用エリア（勤務地）

雲南市、飯石郡

## 採用担当者からあなたへ

私たちは、持続可能な森林づくりを通じた地域社会への貢献、林業の活性化を目指して取り組んでいます。森林整備や自然環境の保全に興味や関心がある人、体力と忍耐力に自信があり、円滑なコミュニケーションがとれる人、前向きに仕事に取り組むことができる人を求めています。



総務企画課長  
石飛 志保さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0854-62-1520

採用直通 E-mail

soumu@ii-mori.jp

公式サイトは  
こちら

大きな重機を操り  
原木をつくる

山の斜面で重機に乗り、伐倒木の枝払・造材などを行う2人。重機の操縦のほか、山に入ってチェーンソーで立木を伐採することも。「何十年も生きた大きな杉が倒れる瞬間の迫力はすごいんです！」と林業の醍醐味を語る。



## 送電線の巡視路を整備

造林班にはさまざまな業務があり、この日の仕事は、電力会社による送電線の巡視や管理を行いやすくするため、巡視路や鉄塔周りを整備する作業。時にはこうした仕事が入ることもある。使用した道具のメンテナンス（左下）も、大切な仕事の一つ。

センターの開設で  
流通機能を強化

現場から送られてくる大量の原木。以前はこうした施設がなかったため、山から直接、限られた場所にしか出荷できなかったが、センターができて大幅に流通機能が強化された。「山林現場で生きている木を相手にしていた時と、木の見方が完全に変わりました」と話す。



## 森で働く女性たち「林業は楽しい！」

山林の現場で働く二人の林業女性。以前は事務職をしていたという栃谷さんは、知り合いに誘われて林業の世界に入った。集材用の車両フォワーダを乗りこなし、原木の運搬や搬出を行っている。「山によって道も木も全部違うので、6年目でもまだまだ学ぶことも多く、ずっと成長し続けられるのがこの仕事の魅力。でも雷は嫌いです（笑）」と笑顔で話す。

そんな栃谷さんを「姉さん」と慕う金折さんは、「機械に乗るのがとにかく好きで、毎日が楽しい！」と言い、立木の伐倒や造材を行うハーベスタを巧み

に操り、パワフルに原木生産に取り組んでいる。

女性には大変な仕事なのではと感じるが、二人の話からはそんな苦労は感じられない。「女性だからという“ひいき”はありませんが、働きやすい環境を作ってもらえていることはすごく感じます」。力仕事など、現場では男性にしかできない作業もあるが、仲間同士お互いに負担のないよう補い合っているという。林業は楽しいと自信を持って言えます。興味がある人はぜひ林業体験してみてください実際に触れてみることでイメージが変わりますよ」



木材生産担当  
栃谷 徳子さん(40) 金折 愛梨さん(25)  
入組6年目 入組5年目



## 親子のような信頼関係でともに森を育てる

経験豊富な福場さんと、若手の成長株である大谷さん。同じ造林班でペアを組み、植栽や下刈り、間伐、枝落としなど、森林を整備して育てる業務をメインに行っている。大谷さんは高校卒業後、「地元の自然に関わる仕事がしたい」と林業の世界へ。初めてチェーンソーで立木を伐った時は恐怖心もあったが、3年目の今は大木の伐倒にも慣れ、整備を終えた山を見てはやりがいを感じる日々だ。「周りの同年代と比べて終業時間が早いのも魅力です。友達と海に行ったり、地元のチームで草野球を楽しんだり、自分の時間をしっかり楽しめています」と笑顔

で語る。

入組15年目になる福場さんは、若手社員の指導役も行うベテラン作業員だ。自然相手の現場ではさまざまな判断力や体力・技術が必要だが、若手に負けないパワフルさで現場をリードしている。「風通しもよく人間関係も良好、働きやすい職場ですよ」と福場さん。大谷さんは福場さんの息子と同じ年といい、まるで親子のような関係性の二人。険しい山の中で、時には大変な場所での作業もあるが、信頼関係を築きつつ強力なタッグで頼もしく森を育てている。



森林整備担当  
大谷 昂矢さん(21) 福場 浩一さん(48)  
入組3年目 入組15年目



## 長年培った経験で原木の質を見定める

2022年9月に開設した「吉田木材流通センター」で働くベテランコンビ。センターに運ばれてくる大量の原木を、大きさや曲がりなど質・状態を見ながら選別し、出荷までの業務を行っている。

以前は山林現場の作業員だったという二人。現場の苦労を知っているだけに、仕分けにも気合いが入る。「送られてきた木を見ながら、この時期は暑くて大変だったろうとかいるんじゃないかなって湧き上がってきます。現場が頑張ってくれた木を、少しでもいい状態で出荷したい」。偏った選別にならないよう、それぞれが仕分けた木を、お互いにチェッ

クし合う。「真剣に見すぎちゃって、夕方になると目が疲れるんです」と笑う。

兼業農家の峠さんは休みの日には家で農業を、三味線の師範という陶山さんは教室を開いたり全国の舞台を渡り歩いたり、二人とも林業とは違う顔も持つ。この仕事の魅力を聞くと、「“山”という共通の話題があるから、年代関係なく仲がいいのが魅力だと思います。身体を動かすのが好きだから無理なく続けられたんだと思う」と陶山さん。何より二人が長く勤めているということが、働きやすさの証である。



木材流通担当  
峠 実高さん(61) 陶山 朋之さん(50)  
入組21年目 入組31年目

